あかせて訪ねたい 寺院・神社



遠江曹洞宗発展の基礎を築いた如仲天誾の弟子である大路一遵と、久野城主 宗隆を開基とする曹洞宗の名刹です。徳川家康との関係も深く、江戸時代には 三河、遠江、駿河、伊豆の四カ国の僧侶の人事権を与えられた大寺院でした。



大宝元年(701)行基により開山し、天平勝宝元年(749)孝謙天皇の眼病治癒の功績により 勅願寺になったと伝えられる真言宗の古刹で、久野城で没した宗成の父宗能の位牌もあり



久野城は東海道を監視すると共に、永禄11年(1568)武田信玄により攻められ掛川城に 逃げ込んだ今川氏真を討つべく、徳川家康の掛川城攻めの前線基地となりました。不入斗 の地にも家康陣所があった記録があり、冨士浅間宮が陣所の候補地となっています。



最後の城主北条氏重が、万治元年(1658)掛川城主の時に亡くなりました。最初は掛川市内 に葬られましたが、墓の管理が行き届かなかったため、寛文4年(1664)堀内重勝を中心とした 家臣たちにより上嶽寺の裏山に改葬され、今でも地震で壊れた氏重の墓塔が残っています。



袋井の城・館・陣屋位置図

訪ねてください。





参考図書 袋井市「目で見る袋井市史 |2001年/浅羽町「図説浅羽 町史」2001年/袋井市教育委員会「遠江久野城!一歴代 城主が残したもの一」2008年/加藤理文・中井均編 「静岡の山城ベスト50を歩く 2009年 サンライズ出版/ 加藤理文編「静岡県の歩ける城70選」2016年静岡新聞社

袋井市教育委員会

〒437-1192 静岡県袋井市浅名1028番地(浅羽支所内) TEL.0538-23-9264

市指定文化財 松下・北条氏時代の瓦です。 南西方向から見た城の遠景 瓦葺建物の出現により戦う城 です。かつては湿地に囲ま から見せる城への変化を知る れた平山城でした。 ことのできる重要な遺物です。

寺や個人が管理している場所もありますので、一言ことわってから







●コース以外の場所への立ち入りは極力避けてください。

●マムシに注意してください。

見学のお願い

袋井市教育委員会

●崖や急斜面など危険な場所には近づかないでください。

城の歴史と構造

で あう こん げんしゃ 久野城には座王権現社があったことから蔵王城とも 呼ばれ、戦国時代では地元武将久野氏の居城でした。築城は 明応年間(1492~1501) 久野宗隆とされ、天正18年 (1590)徳川家康の関東移封に従い、久野宗能も下総佐倉 に移りました。久野氏の関東移封後は、豊臣家臣である松下 之綱・重綱親子、慶長8年(1603)再び久野宗能から宗成、 最後の城主として元和5年(1619)家康の甥である北条 氏重が入城しますが、正保元年(1644)に廃城となりました。

本丸や高見から南方向を見ると、東海道が東西に延びて いることが見通せるため、街道監視目的の城であることが よく分かります。城の各所に曲輪や堀切、土塁、横堀など があり、戦国時代~江戸時代初期の平山城の姿をよく とどめています。城の北側には横堀と大土塁が配され、北側 からの防御を固めていたことが分かります。さらに城の南・東・ 西側は現在水田ですが、かつては周囲に水堀が巡り、その 外側は湿地という天然の要害により守られていました。

発掘調査では久野氏時代の掘立柱建物や土器・陶磁器、 松下氏時代の礎石建物や瓦が出土し、北条氏時代では 本丸の建物が壊された(破城)痕跡と、城の中心を山麓部 に移したことが確認されました。戦国時代の戦う城から、 久野城周辺を統治する役所としての役割に変化したことが、 発掘調査の成果から判明しました。



台風で水没した久野城です。かつて水堀に囲まれていた様子が、 よくわかる風景です。



北東方向から見た城の遠景です。城の北側は尾根づたいとなって おり、敵兵の攻撃が予想される場所です。



城の北側はかつて尾根つづきで、敵兵が攻めやすい場所でした。斜面の中程に空堀を横方向に掘り(横堀)、廃土を外側に盛り土塁とし、かつて 道路部分に大堀切があり、城の弱点である北側の防御を固めていました。







確認され、北条氏時代に本丸の破壊行為(破城)があったと思われます。

さむ 久野城を歩いてみよう!



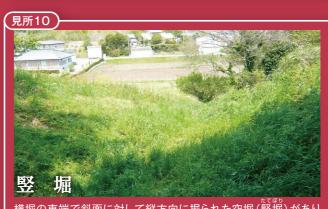












横堀の東端で斜面に対して縦方向に掘られた空堀(竪堀)があります。斜面を登ってきた敵兵を、東の丸や大手などの城内に進入させないため、東方向への移動を阻止する目的の堀です。